

第3回 障がい者地域医療ネットワークの現状とは？

社会局 局長 山川智之

社会局担当理事 羽田晋也

医療・介護保険部副部長 藤井崇典

前号では、「障がい者医療・高次脳機能障がい協力医療機関等実態調査事業」の調査内容についてご紹介し、障がい者が適切な医療を受けることが出来ないのは、ネットワークへの理学療法士の関心の低さが一因となっているという事をお伝えしました。今号では、障がい者地域医療ネットワークの協力医療機関になっている病院または施設の代表理学療法士を対象に、調査資料部がアンケートによる実態調査を行いましたので以下にご報告致します。

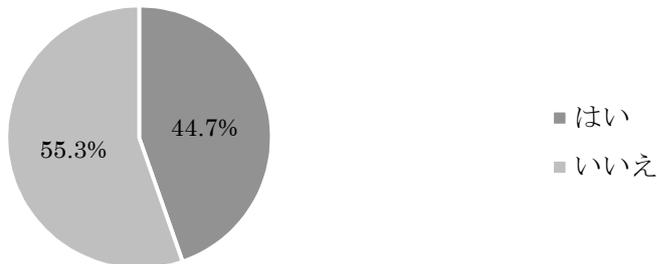
アンケート調査は、現状におけるネットワークの認知度、有用性、活用の実例等を通じて問題点・今後の課題を明らかにするという目的で、脳性麻痺（整形外科・リハビリテーション科領域）ネットワーク、脳性麻痺・筋疾患等（小児神経科・外科領域）ネットワーク、脊髄損傷ネットワークに協力している医療機関の内、府士会員の在籍している、のべ114施設を対象に行い、47施設よりご返答をいただきました（回答率：41.2%）。

病院または施設の代表理学療法士対象アンケート

1. ネットワークそのものをご存知ですか。（ネットワークの認知度）

「はい」 44.7% (21件)

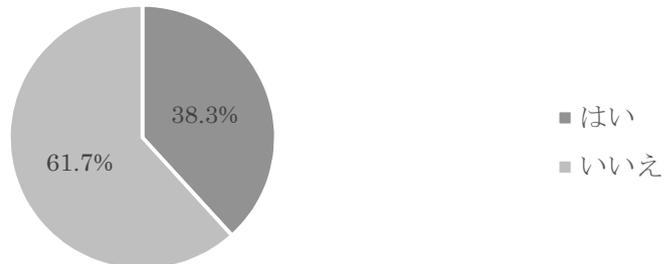
「いいえ」 55.3% (26件)



2. ネットワークに、大阪府理学療法士会が協力していることはご存知ですか。

「はい」 38.3% (18件)

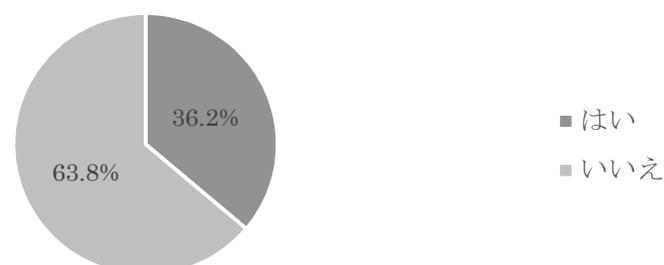
「いいえ」 61.7% (29件)



3. 貴施設が参画していることをご存知ですか。

「はい」 36.2% (17件)

「いいえ」 63.8% (30件)



4. 実際にネットワークを活用されたことはありますか。(ネットワークの活用の実態)

「はい」 12.8% (6件) 「いいえ」 87.2% (41件)



5. 活用したことがある場合：事例についてご紹介ください。(全2件)

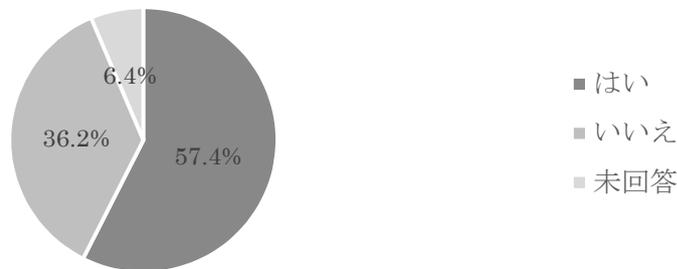
- ・他院からの紹介で患者様のリハビリを行っている。
- ・相談窓口や制度等の検索に活用している。

活用したことがない場合：なぜ活用しないのかお教えてください。(全10件)

- ・ネットワークを知らなかったため。(5件)
- ・相談を受けるのはMSWか窓口であるためリハ部は関わらない。(2件)
- ・必要性を感じたことがなかった。
- ・活用の仕方がわからないため。
- ・現状の制度で問題が生じていない。周知徹底が十分でなく齟齬が生じる恐れがあるため。

6. 今後、ネットワークを通じてリハビリテーション依頼があれば対応は可能でしょうか。

「はい」 57.4% (27件) 「いいえ」 36.2% (17件) 「未回答」 6.4% (3件)



今回のアンケート調査で、障がい者地域医療ネットワーク協力機関の代表理学療法士においても、ネットワークの認知度は5割未満で、ネットワークに大阪府理学療法士会が協力していること、自施設がネットワークに参画していることを認知している機関が、共に4割未満であることから、やはり、理学療法士のネットワークへの認知度は低く、周知は不十分であると考えられます。

また、実際の活用状況においても、活用している施設が12.8%と非常に少なく、活用していない理由についても、「ネットワークを知らなかったから」が、5件と一番多く、次いで「窓口がMSWだから」が2件、「どう活用していいかわからなかった」、「必要性を感じなかった」、「周知徹底が不十分で齟齬が生じる恐れがある」が1件ずつと、ネットワークの認知度や活用方法が不明瞭であることが、活用されていない一因であるという事が示されました。しかし、今後、ネットワークでのリハビリ依頼があった場合に対応可能とする施設が6割近くあり、ネットワークの認知度や活用方法の提示などの情報提供をしていくことで、ネットワークへの理学療法士の協力や対応につながると考えられます。我々が提供する理学療法を必要としている方々が、その機会を失わないようにするために、このような行政の取り組みだけでなく、その活用方法などの情報を周知していく必要があるのではないのでしょうか。